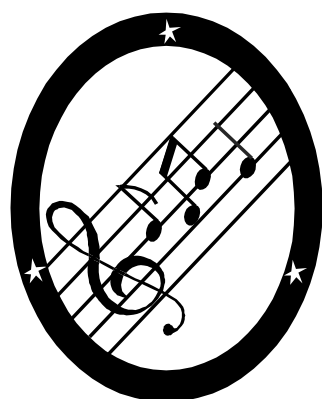


# 霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団

## 第8回定期演奏会



2011年4月9日(土) 14:00開演

渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

## PROGRAM

シューベルト／ロザムンデ序曲

リスト／交響詩「前奏曲」

－休憩－

ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」

### 代表挨拶 団長 堀口 岳史

この度の東日本大震災によって被災されたすべての方々及びそのご家族の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

この地震は当団の演奏活動にも影響を与えました。地震後は、照明や空調の使用を可能な限り抑えつつ練習を行い、時には、練習時間の短縮や練習の中止を余儀なくされたこともありました。

このように、練習を十分かつ継続的に行うことが難しい状況ではありましたが、計画停電の実施、燃料の不足等により生活への不安を感じる方々に少しでも前向きな気持ちになって頂くために我々ができる最善のことは、多くのお客様に我々の音楽を聴いて頂くことであると考え、第8回定期演奏会を予定通り開催することと致しました。本日、このように演奏会を開催できることを、大変嬉しく思っております。

本日演奏する曲目は、どれも晴れやかで力強いものです。「ロザムンデ序曲」の明朗快活なリズム、「前奏曲」の迫力あるファンファーレ、そして「英雄交響曲」の軽快かつ雄大な動機、そのどれをとっても、本日の演奏会にいらして下さったお客様に、音楽の持つエネルギーを感じ取って頂くことができるものと思っております。団員一同、精一杯演奏しますので、我々の奏でる演奏をお楽しみ頂ければと思います。

なお、首都圏における電力需要を抑えるため、照明の一部消灯等により電力消費を軽減しておりますので、お客様に若干のご不便をおかけしてしまう可能性がございます。何卒、ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご来場の皆様はもちろんのこと、当団の演奏会開催に当たりご支援・ご協力下さったすべての方々に厚く御礼申し上げます。

### 指揮者紹介 林 直之

広島県広島市出身。

航空宇宙工学に興味を持ち京都大学工学部物理工学科に学んだが、音楽に対する情熱と指揮者への憧れを断ち難く同大学を中退の後、2007年東京芸術大学音楽学部指揮科に再入学。2011年3月東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。

これまでに、指揮法を故佐藤功太郎、小林研一郎、尾高忠明、松尾葉子、高関健、小田野宏之、田中良和、三河正典の各氏に師事。

また、学内外において、ペータ・ギュルケ、ダグラス・ポストック、ジョルト・ナジ、マルク・アンドレーエ、ドミトリー・シトコヴェツキー、井上道義、広上淳一、飯森範親、下野竜也各氏の指揮マスタークラス、ワークショップを受講。

【公式ホームページ】 <http://chef.na0yuki.com>



## <曲目解説>

### ♪シューベルト／ロザムンデ序曲

戯曲「ロザムンデ」は、とんでもない駄作であったために現代までにその台本が失われましたが、シューベルトの曲が素晴らしかったために序曲と付随音楽だけが現在まで残されました。なので、劇内容に絡めた解説ができません・・・申し訳ございませんがご理解を。

序奏は哀愁を帯びたオーボエが旋律を歌い上げます。第一主題から長調となり、ヴァイオリンとフルートによって軽快に進みます。第二主題で転調し、木管楽器による優しく伸び×2とした旋律が続き、コーダ部で最高の盛り上がりを見せて曲は終わります。

「何故、曲だけが残ったのか」は、聞いていただければわかるはずですよ！それでは演奏をお楽しみに！！

### ♪リスト／交響詩「前奏曲」

ピアノ曲「愛の夢」などで有名なリスト (Franz Liszt, 1811年-1886年) はハンガリー生まれの作曲家で、若い頃は「ピアノの魔術師」などと呼ばれ卓越した技巧による名演奏家としてヨーロッパ各地で華やかに活躍しましたが、作曲の尊さを知ると後半生は作曲活動に専念しました。作曲家としてのリストは「交響詩」の創始者として有名です。交響詩とは、主に文学的ないし絵画的な内容に基づいたオーケストラのための標題音楽（曲が表現しようとする題名・文章がつけられた音楽）で、通常は単一の楽章で構成されます。

本日演奏する「前奏曲 (Les Préludes, 1854年)」は、リストの代表的な交響詩です。リストがパリで交遊のあった詩人ラマルティエヌ (Alphonse Marie Louis de Prat de Lamartine) の「詩的瞑想録」の一節がつけられています。内容は「われわれの人生は死により開かれる未来の国への前奏曲へ他ならない。現世は愛によって明けるが苦闘の嵐の中に暮れる。自然の美しさは心に平安を与えるが、一度戦いのラッパが鳴れば人々は必ず戦場に帰るものだ。」というものです。このため、この曲はタイトルこそ「前奏曲」ですが、いわゆる歌劇等の「前奏曲」とは意味が異なります。

木管楽器のソロ、ホルンの四重奏、金管楽器のファンファーレなどの聴きどころをお楽しみください。

(参考)「クラシック 名曲大事典 (音楽之友社)」、「全音ポケットスコア リスト 交響詩前奏曲 (全音楽譜出版社)」

### ♪ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」

クラシックを多少かじったことがある方であれば、この交響曲第3番が「英雄」と呼ばれていることをご存知でしょう (注1)。また、ナポレオン・ボナパルトに対して献呈しようとしたところ、皇帝即位に激怒したベートーヴェンが献辞の書かれたスコアの表紙を破り捨てたというエピソードも有名かと思います。さらに詳しい方であれば、そのエピソードの真偽に議論があると知っておられるかもしれません (注2)。それはそれで興味深いものですが、本日は、その種のエピソードを離れ、曲そのものについて簡単にご紹介したいと思います。

第1楽章：冒頭に2回繰り返される和音に続き楽章全体に通じるテーマが始まります。メロディーのパートが次々に入れ替わったり、掛け合いであったりと追いかけるのが大変かもしれませんが、その流れを楽しめる作りとなっています。また、長いメロディーを同じパートが受け持つときには、逆に落ち着きも感じられるでしょう。

第2楽章：葬送行進曲 (Marcia funebre) という題がつけられています。葬列の人々の重い足取りが聞こえてくるような冒頭から始まり、郷愁を誘う長調を経て、再び短調に戻ります。

第3楽章：テンポの速い3拍子のスケルツォ。ピアノ (弱音) が続く緊張感やフォルテの解放感、森を思わせるトリオ (ホルンにより始まります) など情景豊かに流れていきます。また、メロディーも3拍目から始まるものの、2拍目・1拍目から始まるものなど遊び心を感じる楽章でもあります。

第4楽章：激しい動きで始まり緊張を感じた後しばらく軽快に続きますが、突然短調が現れた後何事もないかのように再び長調に戻ります。その後、テンポを落とした流れが続き、最後に再び楽章冒頭と同様のフレーズからフィナーレに向かいます。

最後に現下の東日本大震災による混乱が続くことに触れずにはられません。選曲した当初、葬送行進曲を含むこの交響曲をこのタイミングで演奏することになるとは思いもよらないことでした。しかし一方でこの曲には3楽章から4楽章にかけての躍動や堂々とした様子、また遊び心や革新を感じさせる部分もあります。一日も早くこの曲のような力強さを取り戻し、また、この曲を心から楽しめるようにと願うとともに、団員一人ひとりもそれぞれのベストを日々尽くしつつ、本日はいっそう思いを込めた演奏を目指したいと思います。

(注1) 日本では副題つきのものが有名ですが、厳密には、第3番が「英雄的な交響曲」、第5番 (運命) は無題、第6番が「田園」、第9番 (合唱つき) が無題となっています。

(注2) この議論はウィキペディアにおいても概要を参照できます。

## 演奏者一覧 (○は各パートトップを示します。)

<1st Violin>  
○赤谷 麻愛  
飯塚 美理  
市ノ渡 佳明  
太田 喜久  
角谷 政宏  
納富 史仁  
林 和巳  
松波 晴彦  
宮下 詩織

<2nd Violin>  
阿部 純子  
河合 徳子  
○河田 小百合  
小島 直美  
菅野 正平  
田中 彩恵子  
宮本 阿沙子  
和田 沙織

<Viola>  
井脇 浩之  
江原 慎太郎  
高口 亜維  
小島 綾太  
高柳 文恵  
中本 知子  
○堀口 岳史  
望月 皓平

<Violoncello>  
浅見 直希  
國友 幸子  
小松 由季  
隅田 季光  
○高野 純二  
矢部 愛  
山下 直也

<Contrabass>  
荒木 儀子  
○井野 紘太郎  
尾崎 昂  
秦 敦子

<Flute>  
○浅野 嘉邦  
小杉 枝里  
早川 博美

<Oboe>  
稲葉 久美子  
岡本 憲治  
○高寺 宏典

<Clarinet>  
北原 まどか  
小島 慎平  
○佐貫 美弥子

<Fagott>  
川野 雅美  
霜尾 雅一  
○宮澤 新

<Horn>  
大高 奈穂子  
大村 朋之  
○唐木 智史  
増田 紘一  
森合 利之

<Trumpet>  
○迫田 英晴  
高関 悠  
橋本 綾子

<Trombone>  
岩城 光  
小野 芳清  
○林 剛史

<Tuba>  
○津留 雅弘

<Percussion>  
竹内 麻里奈  
長 浩光  
永尾 裕司  
○横田 直人

<Harp>  
○斉藤 綾子

## 役 職

団 長 堀口 岳史  
副 団 長 迫田 英晴、林 剛史  
会 計 飯塚 美理、林 剛史  
広 報 赤谷 麻愛、河田 小百合、橋本 綾子  
イベント 迫田 英晴

コンサート・マスター 赤谷 麻愛  
木管セクションリーダー 高寺 宏典  
金管セクションリーダー 唐木 智史  
団員指揮 石川 真一、森合 利之

## 霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団について

霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団（通称「霞ヶ関フィル」）は、平成16年に霞ヶ関で働く新社会人を中心に発足したオーケストラです。発足以来、50~60人の社会人、学生等が集まり、東京都内で月に数回練習を行っています。

本団は、「音楽を愛する心」を何よりも重視し、オーケストラの楽しさ、クラシック音楽の素晴らしさを日々探求し、演奏の向上に努めております。現在は年に2回の定期演奏会に向けた練習を中心に活動を行っています。

団員一同、常に質の高い演奏の実現を目指し、皆様のご支持をいただけるアマチュア・オーケストラとして成長していきたいと考えておりますので、ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

## 演奏会のお知らせ

霞ヶ関フィルハーモニー管弦楽団では第9回定期演奏会を今冬予定しております。ドヴォルザーク交響曲第7番他、皆さまにお楽しみ頂ける曲を準備しております。

詳細は決まり次第、下記ホームページにてお知らせいたします。

<ホームページ> <http://kpo.nomaki.jp>

<お問い合わせ> [kasumi\\_phil@yahoo.co.jp](mailto:kasumi_phil@yahoo.co.jp)